

2020年度 モコ宮脇保育園 園評価

職員評価

保育の見直しを始めて3年。理念を読み解いたり、指針を読み込んだり、園としてどんな保育をしていこうか模索した3年だったと思う。若手から中堅・ベテランと様々な年代、そして様々な保育経験の職員が揃う園の中で、「語り合い」「チーム保育」を意識し研修を重ねてきた結果が、少しずつ自己評価に表れてきたように感じる。

1. 自分の強み・弱みを自分で見極める

保育のプロとして子ども達と向かう意識が職員の中に芽生えてきた結果、自分の保育を客観的に考察したり、「もっとこうありたい！」と向上心を持つことができているのではないかと考える。

2. クラスだけでなく、園全体の保育を！

互いのクラスを助け合ったり、相談しあったりすることで、「園」として子どもたちがより心地よく生活するためにどうすれば良いかを自然と考えられる体制が整っていたと感じる。「困ったこと」に対しても他人事と思わず、解決しようと職員が意見を交わす関係性が生まれている。

総評

玄関掲示を通しての視点の統一や、保育の語り合い等、小規模保育園の利点である「丁寧な保育」を保護者にも評価いただけたが、来年度から隣接地に90人定員の「モコ掛川保育園」が開園するため、「今までのようなモコでいて欲しい」「子どもの人数が増えるから不安」というような保護者からの思いも寄せられた。モコ掛川保育園建設のため、モコ宮脇保育園の敷地も整備され、安全面、保育環境ともに随分整備されたと思う。整えられた環境を十分に活用し、また、モコ掛川保育園と連携をとることで、今までの丁寧な保育をそのままに、より子どもたちがワクワクするような保育を提供できるようにしていきたい。

職員人数も増え、「保育の方向性」については、もう一度丁寧に語り合っていく必要がある。ひとりひとりが思いを出し合うことで、職員同士のチームワークはより良いものへと変化していくと考える。今後も風土を大切に職員も子どもも保護者も生き生きとできる保育園を目指したい。